

令和8年度第1回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

日 時 令和8年7月7日（火） 10:00～12:00

場 所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口 ホール5A

出席委員 齋藤優子会長、遠藤智栄副会長、砂金英輝委員、大原敦子委員、齋藤和平委員、阪野雅之委員、佐藤進次委員、佐藤由麻委員、佐藤渉委員、志田原美保委員、高橋たくみ委員、多田千佳委員、沼沢しんや委員、沼田隆委員、東岡礼治委員（代理出席）、吉田美緒委員

以上16名（委員定数20名）

欠席委員 伊藤美穂委員、猪股孝之委員、福島康裕委員、北條俊昌委員

事務局 環境局長、脱炭素都市推進担当局長、環境局次長、環境部長、脱炭素都市推進部長、資源循環部長、施設部長、総務課長、環境共生課長、資源循環企画課長、家庭ごみ減量課長、事業ごみ減量課長、施設課長、今泉工場再整備担当課長

傍聴人 0名

次 第 1 開 会

2 議 事

（1）一般廃棄物処理基本計画に係る目標の進捗状況等について

（2）令和7年度の主な取り組み結果について

（3）令和8年度の主な取り組みについて

3 報 告

（1）今泉工場建替に伴う環境学習・啓発拠点の基本的な考え方について

4 その他

5 閉 会

1 議事要旨

発言者	議事要旨
齋藤優子会長	議事の（１）及び（２）については関連する内容となっていることから、まとめて事務局より説明をお願いします。
資源循環企画課長	<資料１～２に基づき説明>
齋藤優子会長	ただいまの事務局の説明について、質問や意見がありましたらお願いします。
齋藤和平委員	資料２の１３ページを見ていただくと分かるが、生活ごみの集団資源回収について心配している。今、地域では非常に困っている。学校関係の方はお分かりだと思うが、子ども会がほとんど全滅に近い状況になっている。うちの町内会でも子ども会が資源回収を行っており、奨励金もいただけるため良い制度ではあるが、子ども会そのものが成り立たなくなっている。子どもが少なかったり、役員になることを敬遠する人が増えていることも理由だと思う。子ども会ができなくなれば町内会で、という話になるが、町内会も高齢化が進んでいる。町内会加入率も下がっており、青葉区ではかなり低下している。特に資源回収について、子ども会を含めた地域団体をお願いする現在の仕組みは、今後どこかで行き詰まるのではないかと感じている。その辺りを早めに検討していただきたい。
家庭ごみ減量課長	ご指摘のとおり、集団資源回収を行っている子ども会は年々減少しており、ここ数年でも１００件以上減少している。一方で、町内会による取り組みは微増しており、新しく建設されたマンションなどでは管理組合による取り組みも増えている。資源回収については地域団体だけではなく、事業者店舗での回収や企業連携による回収拠点など様々な手法があるため、そのような取り組みの拡充も含めて進めていきたい。
沼沢しんや委員	資料１の７ページについて伺う。事業ごみの組成調査を見ると、プラスチックの割合が前年度から約１３ポイント近く増加しており、数値としてはかなり異常値に見える。この要因についてどのように分析しているのか伺いたい。また、資料２の１５ページのリチウムイオン電池回収については、回収量が増えていること自体は取り組みの成果と考えられるが、一方で火災事案も増加している。全国的にはリチウムイオン電池を検知するシステムなどの実証も行われているが、本市としてどのような課題認識を持っているのか。また、今後どのような対応が必要と考えているのか伺いたい。

資源循環企画課長	事業ごみ組成調査については、収集車両からごみ袋を抽出して分析した結果であり、毎日調査しているわけではないため、年度ごとのばらつきは生じ得る。今回主に増えていたのは製品プラスチックであり、例えば事務用品などがまとまって排出されていた事例もあった。ただし、この調査は単年度の数字を見るだけではなく、中長期的な傾向を見ることが重要である。今回の結果を見ると、事業ごみ中のプラスチックが増加傾向にあることも見えてくるため、今後さらに組成分析を行いながら対応を検討していきたい。 リチウムイオン電池については、収集車両や施設において発煙事案が発生しており、非常に課題認識を持っている。様々な技術開発も進んでいるが、全国的に広く実用化されているわけではない。本市としては、黄色い回収かごへ週1回排出できる仕組みがあるので、まずはそこへ適正に排出していただくことが重要であると考えており、そのための周知啓発を引き続き進めていきたい。
資源循環部長	全国的に課題となっているのは、廃棄後の火災だけではなく、使用時の発煙や発火も含まれる。リチウムイオン電池が持つ有用性ととともに、誤った使用をした場合の危険性について、市民の方々に十分理解していただくことも重要だと考えている。消防局や消費生活センターとも連携しながら、正しい使い方や、熱を持った場合は使用をやめること、使用後はどのように排出するのかということについて、市民にご理解いただくことが重要である。技術的な対応についても今後進んでいくとは思いますが、まずは正しい出し方をしていただくこと、そして危険性の低い形で回収することが重要だと考えている。
佐藤進次委員	先ほどの地域での資源回収のお話を聞いて、そういう背景があるのだと理解した。私は日本スーパーマーケット協会東北支部の立場で参加しているが、店頭でのお客様回収については非常に力を入れて取り組んでいる。地域コミュニティが減少する中で、利用者は年々増加している。 一方で、物量が増えるだけではなく、分別されていないものや不法投棄に近いものへの対応も必要であり、そのための人件費など見えない負担が増えている。回収拠点として期待される一方で、小売事業者もそうした課題を抱えていることを共有させていただきたい。 また、事業ごみにおけるプラスチック割合の増加については、プラスチックは本来産業廃棄物として処理しなければならず、そのためには別の収集運搬ルートや処理ルートが必要となる。処理費用も可燃ごみより高くなるため、事業者、とりわけ中小事業者にとっては大きな負担になっている。その結果として、可燃ごみに混入してしまうという背景もあるのではないと思う。

家庭ごみ減量課長	店舗回収については、店舗ごとの事情もあり、臭いの問題や設置場所の問題、利用マナーの問題など、様々な課題があるという話を伺っている。資源回収をさらに進めていくためには、店舗や事業者の皆様の協力が不可欠であるため、今後も様々なご意見を伺いながら、本市として何ができるのか検討していきたい。
事業ごみ減量課長	可燃ごみにプラスチックが混入している事例については、本市でも搬入物検査等で確認している。中には汚れていてリサイクルに適さないものも含まれているが、明らかにリサイクル可能なものについては事業者指導を行っている。ルール上は産業廃棄物として処理していただく必要があるため、その点を説明するとともに、事業者ごとの状況も確認しながら対応を行っている。今後も事業者の実情を踏まえながら、適正な分別と排出について対応していきたい。
阪野雅之委員	緑のリサイクルについて伺う。家庭での剪定枝排出ということで、多分個別住宅を念頭に置いている制度だと思うが、複数棟が建つ集合住宅の低木についても、年に何回もではないが剪定をしなければならない。先日、私が住んでいるところで剪定した枝を粗大ごみ収集ルートで回収していただけか問い合わせたところ、「管理主体で処理してください」と言われた。そうすると、結局は業者を呼んで処理しろという話になってしまうのではないと思う。通常、集合住宅にはごみ集積所があり、家庭ごみは仙台市が収集している。そう考えると、剪定枝はチップ化してリサイクルする制度があるにもかかわらず、細かく切って家庭ごみに出せば焼却されることになる。私が住んでいるのは県営アパートで、高木は県が管理しているが、低木の剪定は町内会で行っている。今回の剪定枝の件では宮城県にかけあうよう言われたが、家庭ごみは仙台市が収集しているわけであり、その辺りの考え方を伺いたい。
資源循環企画課長	本制度は家庭から排出される剪定枝を対象としている。今回の事案については経緯を把握していないため断定はできないが、県営住宅ということで管理主体が県であり、管理行為に伴って発生したものと整理された可能性がある。詳細については改めて確認させていただきたい。
資源循環部長	推測になるが、県営住宅の共用部分の樹木管理については県が管理責任を負っている。その結果発生する剪定枝は事業系の廃棄物として扱われるため、今回そのような説明になったのではないかと考えている。 ただし、個人が生活の中で行う剪定であれば家庭系として扱える場合もあるので、詳細については確認させていただきたい。
齋藤優子会長	議事の（３）について、事務局より説明をお願いします。

資源循環企画課長	＜資料３に基づき説明＞
齋藤優子会長	ただいまの事務局の説明について、質問や意見がありましたらお願いします。
砂金英輝委員	様々な取り組み内容が資料に記載されているが、例えば、ごみの出し方や分別方法一つをとっても、市民の皆さんにもう少し啓発できるような仕組みを作っていただきたい。仕掛けを作ることによって、いろいろなムーブメントが起きるのではないかと思います。 リチウムイオン電池についても、袋の中に混入しているという話を聞き、プラスチックについても、どこまでが資源として出せるのか、どこまでが対象なのか、市民にとって分かりにくい部分があると思う。もう少し啓発活動を強化し、より分かりやすく伝えていただきたい。
家庭ごみ減量課長	ごみの適正な分別やリサイクルを進めるには、市民の皆様伝えるだけではなく、伝わり、実践していただくことが重要だと考えている。リチウムイオン電池についても、こういった製品に入っているのかご存じない方も割合は多くは無いものの一定数いらっしゃると思われるため、集積所へ掲示するポスターなどで分かりやすく伝えていきたい。 イベントやウェブ、SNS など様々な媒体も活用しながら、より分かりやすく伝わるよう工夫していきたい。また、紙類についても、「これも雑がみである」ということを分かりやすく伝えるための啓発を考えており、できるだけ見える化しながら市民の皆様へ伝えていきたい。
高橋たくみ委員	令和７年度、そして令和８年度の取り組みについていろいろお聞かせいただいた。全体として、様々な取り組みをされていることは十分承知しているし、必要なことを進めていただいていると思っている。 ただ、先ほど齋藤委員、佐藤委員からも話があったように、町内会の組織の希薄化や、事業者側の負担という課題がある。事業者の皆様も善意のもとで取り組んでいただいていると思う。 そういう意味で、将来的な話になるが、現在の取り組みを進めるだけではなく、安定したごみ処理体制、収集体制そのものについて今から考えていかなければならないのではないかと思います。 私の地域でも町内会はあるが、隣の町内会はなくなった。そうなってくると集積所の問題が出てくる。集積所も地域の協力があって成り立っているが、その管理については町内会に委ねられている部分が多い。その体制が将来的に維持できるのかという課題がある。 マンションなどは独自に集積所を持っているのでまだよいが、一般的な住宅地では今後かなり影響が出てくるのではないかと思います。 また、収集体制についても、DXなどを導入し効率化を進めていることは

環境局長	理解しているが、それだけで解決できる問題ではないと思う。 ごみを出す側、集める側の双方を含めて、ごみ収集体制全体について、将来を見据えた体制づくりを今から考えていただきたい。これは意見として申し上げる。 まさにそういう課題はたくさんあると思っている。町内会の問題もそうであるし、事業者の皆様も様々な苦労をされながら取り組んでいただいているということをお聞かせいただいた。 また、収集体制についても、委託事業者から担い手不足という話を聞いている。そういう意味では、今は何とかやっているけれども、5年後、10年後はどうなのかというのは、まさにご指摘のとおりだと思う。 我々としてもその課題認識は持っているので、何とかうまくやっていけるように、どうすればよいのかを考えていきたい。また、こういった場でも皆様からいろいろなご意見を伺いながら進めていきたいと思っている。
高橋たくみ委員	ぜひ、この場で個別事業の取り組みだけではなく、その背景にある考え方や将来のあり方についても議論できるような場にしていただきたい。
遠藤智栄副会長	今年度も続けていただいていると思うが、資料2の11ページの生ごみ堆肥化容器、家庭用電気式生ごみ処理機について伺いたい。以前ホームページを拝見した際に、今年度分の予算が終了したという表示を見た。私はそれを見て半分うれしく感じた。予算がなくなるほど利用されているということは、それだけごみを減らそうと考えている市民の方が多いということであり、自らごみを減らそうと行動している方々だと思う。そういう方々は、周囲の人に対しても良い環境行動を広げていく可能性がある方々ではないかと思っている。ごみや環境について、自分や家族、周囲の人に前向きに伝えていける人を増やしていくことが大事だと思う。 そこで伺いたいのだが、この制度を利用した方々について、コミュニティや交流会、あるいは利用者同士で知恵を共有する場のようなものはあるのか。 また、予算については増えている傾向なのか、その辺りについても教えていただきたい
家庭ごみ減量課長	電気式生ごみ処理機については、今年も大変好評をいただいている。前期分については予算を少し増やして対応しているところである。ただし、年間を通して利用いただけるようにということもあり、前期分は一旦締め切りとし、後期分を秋から開始する予定である。 また、利用者の声については、過去にアンケートを実施したことがある。今後も利用者から話を伺いながら、より取り組みやすい制度となるよう進めていきたい。

遠藤智栄副会長	環境に対して積極的な方々だと思うので、ぜひそういった方々を活かしながら、何か一緒に取り組めたらよいと思う。
資源循環部長	市の補助制度を活用して、自ら行動し、生ごみを減らそうとしている方々であり、おっしゃるとおりだと思う。これまでのアンケートは、継続して使用しているか、使い勝手はどうか、課題は何かという観点で実施してきた。利用者同士をどうつなげていくかという視点については、これまであまり意識できていなかったのが実情である。 今後、生ごみ減量に向けた取り組みを考える中で、実際に行動している方々と連携しながら進めるという視点は重要であると思うので、今後検討していきたい。
沼田隆委員	資料3の5ページの雑がみ分別排出促進についてである。以前もお話したが、私たちの上部団体である古紙再生促進センターでは、「雑がみ様」というキャラクターを活用しながら全国的に取り組みを進めている。現在は全国400か所ほどで活動を行っているし、仙台市ともいろいろ連携いただいていると聞いている。市内では東北福祉大学と古紙再生促進センターが連携して雑がみの掘り起こしを行っているほか、紙袋など様々な啓発ツールも作成している。ぜひそのようなツールも活用しながら、分別促進を進めていただきたいと思う
家庭ごみ減量課長	大学生向け講座ではご協力いただき、改めて御礼申し上げる。資源物の中でも紙類の混入率が高く、特に雑がみをどのように分別して資源化していくかという点については、まだ十分認識されていない部分があると思っている。今年はその辺りに力を入れて取り組んでいるところであり、このような力強いお声をいただけるのは大変ありがたい。引き続きよろしくお願いしたい。
齋藤優子会長	資料3の5ページの布類の部分について申し上げたい。以前、家庭ごみの中に混入している資源物として布類がなかなか減らないという話があったかと思う。市民センターなどには資源回収庫があると思うが、私も先週行った際に、かなり利用されていると感じた。土日も開いているし、持ち込まれている方もかなりいるのではないかと思う。ただ、そのような場所で回収していること自体を知らない方もまだいるのではないかと思っている。 また、持ち込んだ後、それがどういうことにつながるのかということも大事ではないかと思う。家が片付くということだけではなく、自分が持ち込んだものが、どのようなルートで、どのようなものに生まれ変わるのかということが見えると、人づくりという意味でも、自分の行動が何につながっているのかという理解につながるのではないかと思う。細かく分別

東北環境局 資源循環・災害廃棄物対策課 佐藤課長補佐（代理出席）	している自治体の中には、分別したものがどのようなものになるのか、どういう形でリサイクルされるのかを表示しているところもあると聞いている。そのような見える化というの、SNSなども活用しながら進めていただけるとよいのではないかと思います。 様々な廃棄物処理や地域課題についてお話があったが、国の立場から申し上げますと、仙台市は全国的に見ても、この廃棄物・リサイクル行政に関して極めて先進的、先駆的な取り組みを様々行っている都市であると理解している。 ただ、それがなかなか見えづらい面もある。最近では、プラスチック資源循環をはじめとして、様々な取り組みが全国的に見ても「仙台市に学べ」と言われるような事例となっている。その辺りは、様々な点で先進的に取り組まれている面もあると思うが、市民の皆様にも積極的にアピールしてもよいのではないかと考えている。 これからは、資源循環、循環経済の確立に向けて、脱炭素及びネイチャーポジティブも含め、これらを三位一体で取り組んでいかなければならないと思っている。ぜひ今後も仙台市においては、その先進性、先駆性を十分に発揮いただければと期待している。
資源循環企画課長	脱炭素、ネイチャーポジティブを含め、三位一体でというところで、今ご意見をいただいたものと理解している。こちらについては、東北環境局にもご協力いただきながら、一緒に取り組ませていただければと思っている。 また、仙台市の取り組みについてエールをいただいたものと理解している。プラスチック資源循環をはじめ、積極的に取り組んでいることについて、市民の皆様にもご理解いただきながら、その理解がさらに三位一体の取り組みの推進につながるよう進めてまいりたい。引き続きご協力のほどお願いしたい。
高橋たくみ委員	先ほど生ごみのお話があったが、前々からお話ししている落ち葉の堆肥化についても、ぜひ進めていただきたい。 落ち葉の堆肥化については、町内会の研修のような形でもっと取り組みを広げて行って欲しいと思っている。緑のリサイクルの一つである。自然のものではあるが、毎年秋になると町内会清掃などで多量の落ち葉が出る。多くは燃やすすかない状態になっている。 一方で、一部の地域では落ち葉を堆肥化しようということで取り組んでいるところもある。落ち葉なので臭いも出ず、地域で活用している事例や、学校で取り組んでいる事例もある。そのような取り組みはまだ十分知られていないと感じている。周知が足りないと思っているので、落ち葉の堆肥化についても改めて進めていただきたい。

家庭ごみ減量課長	落ち葉については、堆肥化に長年取り組んでいる団体があり、出前講座などを受講されている団体もあると認識している。 また、昨年度は実証事業の取り組みも進めており、どのような課題があるのか、どうしたらよいのかということについて話し合いながら進めている段階である。引き続き検討を進めてまいりたいと考えている。
齋藤優子会長	報告事項について、事務局より説明をお願いする。
家庭ごみ減量課長	<資料4に基づき説明>
齋藤優子会長	報告事項ではあるが、ご意見等があればお願いしたいと思う。
高橋たくみ委員	一点、質問というか意見になるが、まず確認したい。これは報告事項ということだが、意見を申し上げてもよいということによろしいか。 資料を見させていただいて、内容についてはかなり期待している。良い施設になるのではないかなと思っている。ただ、一番大事な視点があると思っている。それは「行きたくなるようなデザイン性」である。 私もいろいろな施設を見てきたが、熊本市の施設や、まだ行ったことはないが広島市の施設などは、一般の方がデートでも行くような、それぐらいデザイン性の高い施設になっている。もちろん中身が重要なのは当然だが、人が興味を持って足を運びたくなるような見た目というのも大事だと思っている。大阪の施設のように派手なものにしろということではないが、行きたくなるようなデザイン性については、ぜひ考えていただきたい。
環境局長	意見に賛成である。ただ、デザインということになると、どうしても費用との兼ね合いがある。どこまでかけられるかという部分もあるので、一定の制約の中で考えなければならないと思っている。 広島市の施設については私も見学したが、非常に良かった。ただ、同じものをつくろうと思ったときになかなか難しいというのも正直なところである。できる範囲で、やれる範囲で工夫しながら考えていきたい。
吉田美緒委員	今回の今泉工場の建替えに伴う環境学習啓発拠点については、ごみ問題に関する展示などが中心になると思うが、ぜひ気候変動問題や海洋ごみに関する情報なども取り上げていただきたい。既に考えていただいているのかもしれないが、気候変動問題や海洋ごみ問題については、今後どのように変化していくのか分からない部分もある。そうした中で、最新の情報や状況について学べるような施設にしていただければと思う。 また、環境団体との連携についても、ぜひ積極的に進めていただきたい。私たちも環境団体として活動しているが、仙台市と連携しながら取り

家庭ごみ減量課長	組んでいくことについては大歓迎である。ぜひ積極的に一緒に取り組めればと思っている 新しい環境学習施設の内容については、詳しいところは令和9年度以降の検討になる。ただ、今回示している検討の視点の中でも、本市の環境分野全体について体系的に学べる施設になっていないという点を現状の課題として考えている。 そのため、工場見学という資源循環分野では非常に大切な学びに加え、脱炭素や自然共生、快適環境など、杜の都環境プランに掲げる他の分野についても連携しながら内容を検討していきたいと考えている。 また、施設運営にあたっては、環境団体の皆様のご理解、ご協力が不可欠になると思っている。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
齋藤優子会長	その他、委員の皆様から何かあるか。
大原敦子委員	女性会の方では、環境活動について大きなことをやっているわけではないが、令和6年、令和7年とフードドライブに参加し、日本赤十字社と一緒に年2回実施していた。非常に考えさせられる活動であり、とても勉強になった。その中で、令和6年と令和7年では、フードバンクに来られる方々の状況が全然違っていた。令和6年頃は、困窮家庭やひとり親家庭、高齢で一人暮らしの方など、本当に大変な思いをされている方のお話を聞いていた。 しかし、翌年に行ってみると、外国人の方が時間になるとたくさん来られていた。もちろん困っている方もいらっしゃると思うが、「去年とは全然違う」という印象を受けた。 私はコロナ禍の頃から参加させていただいているが、この数年で環境そのものが次々と変わっていることを実感している。自転車で行き交う外国人も非常に多くなったと感じている。 この審議会で議論すべき内容とは少し違うかもしれないが、社会環境が次々と変わっており、それに対応していかなければならないということを改めて考えさせられた。
齋藤和平委員	手短に2点申し上げたい。 1点目は、委員からも話があったが、こうした良い取り組みをもっと幅広くPRすべきだと思う。仙台市内の町内会は、7月、8月になると夏祭りの時期になる。私の地域だけでも複数の町内会があり、夏祭りには何千人という人が集まる。そうした場で、ごみの分別や資源回収のことなどをPRしてはどうかと思う。現在もそれぞれの町内会で取り組んでいると思うが、統一的に発信することで効果があると思う。もう時期的に今年は難しいかもしれないが、今後ぜひ夏祭りの場を活用していただきたい。

	2点目は、仙台市内には多くの集会所があると思うが、築50年以上経過しているところも多く、机や椅子などの備品が更新時期を迎えている。折りたたみ机や折りたたみ椅子などを更新する際、その処分に非常に困っている。私自身も相談を受けて確認したが、事業系ごみになるということで簡単には処分できない。結局、民間事業者へ依頼して処分しているが、費用も相当かかる。集会所は仙台市から補助を受けて整備している施設でもあるので、このような備品を処分する際の特例のようなものが何か考えられないかと思っている。かなりの数の集会所が同じ問題を抱えていると思うので、検討いただけるとありがたい。
環境局長	おそらく事業系ごみという扱いになるため、様々な課題があると思う。すぐに対応できるとは申し上げられないが、そのような問題があるということは認識した。集会所を所管している部署とも課題を共有しながら、まずは状況を確認していきたい。
志田原美保委員	専門的な立場というよりも、仙台市民としての質問である。最近、仙台市内でクマがよく出てきている。それと、ごみとの関係性について詳しく知りたいと思っている。大学でもクマがよく出ており、「食べかすを外に置かないように」といった話は出てくるが、通常のごみの出し方で何か問題があるのか。また、そういったことについて市として何かメッセージを出す予定があるのか。その辺りの基本的なことを教えていただきたい
家庭ごみ減量課長	クマを人里に引き寄せないためには、誘引物をなくすことが有効な方法であると考えている。例えば、果実の実りが悪い年には柿の実を取ることや、家庭菜園の野菜を放置しないことなども誘引物対策になる。家庭ごみの分野について申し上げると、前の日からごみを出すのではなく、収集日当日の朝にきちんと出していただくようお願いしたい。 また、可能であれば生ごみの水切りをしっかり行い、臭いが発生しにくい状態で排出していただくと、より効果的であると考えている。
志田原美保委員	カラスなどの場合は、ごみを出しておくとなすぐに荒らされるということがあるが、クマについては普通に出していれば特に問題ないという理解でよいのか。
家庭ごみ減量課長	現時点では、クマがごみ集積所のごみに執着しているという事例は確認されていない。緊急捕獲された個体について糞などを調べた例では、草やサルナシなどの植物などを食べており、ごみを荒らしていたという状況は確認されていない。ごみを餌だと学習させないことが重要であるため、収集日当日の朝に出していただくことにご協力いただきたい。 また、カラスがごみを荒らし、その臭いが広がることで野生動物を引き

齋藤優子会長	寄せる可能性もあるため、カラス対策も含めて、野生動物の誘引物を減らすという観点から適正排出をお願いしたい。 なお、そのような内容については市のホームページでも紹介しているので、機会があれば近隣の方にもご紹介いただければありがたい。 他にはよろしいか。それでは時間となっているので、以上で質問を終了したいと思う。 本日は審議の円滑な運営、また様々なご意見をいただき感謝申し上げます。 以上
---------------	--